

## 「島よ」

- P4 「とりまかれて」の三連符を急がない 「いるものよ」の3拍目の頭を久邇先生のピアノと合せよう  
[とり]と[まかれて]と 2 と 4 に分けて歌う
- P6 「たえて」の[た]のTはハッキリ発音、しかしmpで言葉のニュアンスを表現
- P6~7 「憧れ」と「虚しさ」のニュアンスを歌い分ける  
P7の最初の小節 アルト以下のパートはSop.の「虚しさ」にかぶるので控え目に
- P19 「わすれられた」から「おもくなる」迄、発音暗めに 最後の[る]の母音、全パート暗めで揃えて  
「ひっそりと」 促音[っ]を短めに、[そ]のsも丁寧に言う
- P24 「まざりあう」から言葉を一言一言たてて 「しまをさく」の[しまを]は一音一音ハッキリ cresc.
- P28 「そがれ けずられ」はmpの頭からリズムを固く  
Sop.の[を]のcresc.はうしろ目(3,4拍目)で、他のパートより少し残って会場に響かせる
- P52~53 Durの「島よ」女声の[よ]は、「のがれようもなく」につながるような伸ばしを(カブレOK)

◎六つの区切り、それぞれ歌い終わってもピアノの後奏、次への前奏を聞いて、切り替え、表情を変えよう!

(P8 P19~20 P33 P45~46 P52)

◎広い会場に言葉が届くよう、特に子音をハッキリ歌おう!

◎OB会HPのトップページに掲載された「島よ」その3(改訂版) <http://www.academy-ob.com/>  
当日発行されるパンフレットに掲載される尾崎さんの寄稿文です(「福永陽一郎と島よ、そして私」)

## 「夜明けから日暮れまで」

- 一番と二番の歌詞が違う場所をチェック(同じ歌詞は消す、違う部分を目立たせるなど、各自工夫を)
- P5 出だしの「かぜが、はるか、かなたから」 八分休符も歌う(ブレスをしない)
- P6 11小節「という」はdim. (音が上がっていくが、抜いていく)
- P9 35小節の1.カッコに、2.カッコ(P10)の「野火」の音を書いておく(メクリでバタバタしないように)
- P9 35小節「あす」と「で」も言葉としてつなげる(二番の「野火」と「で」も同様)
- P11 43小節目 「もとめよ」のあと、「そのさき」の[そ]をはっきり言い直す
- P13 上の段から下の段はcresc.をして(ピアノの五連符を聞く)ノンブレスで息をつなげて歌う

◎アウフタクトで入る歌詞を気持ちを合せて丁寧に歌おう

◎ソプラノの旋律を追って同じ言葉を繰り返す箇所は、客席にその言葉が印象的に届くように歌おう

## 「帆を上げよ、高く」

### 1. 翼よ、お前の空を翔けろ

冒頭の [つ] [ば] [さ] [よ] は、やわらかい発音で

「かぜを知れ」が4回続く箇所は 滑舌よくどンドンハッキリ喋るように

P7 19小節の [O\_] 入りをハッキリ 23小節以降も同様

P17 [じ] [ゆ] [う] [と] さらに一音一音 はっきり (特に [ゆ])

### 2. 春愁のサーカス

出だし ピアノの前奏の accel.の加速を受けて、「やがてかなしき」と入る

P29~30 9小節の~10小節の accel. で加速で、11小節の「かくしたこぶしで」としゃべる

P30 下の段「わかくさの衣装をまとった」 フランスのシャンソンのように粹に!

P31 下の段「ほそい身をかがめ」 絵を思い浮かべて (在りし日の福永先生…)

P33 「そらに」と「ねがう」を続けて言わない [ねがう] を言い直す

P41 81小節 Bassの [よ] のアクセントをいかして [O\_] もハッキリ

P42 89小節の最後まで *ff* (フォルティッシモ) 90小節で *subito mf*

P44 下の段 Hum\_ accel. rit. とテンポ変わるピアノを聞いて切る (伸ばしすぎない)

### ◎楽譜を読み込んで、テンポが変わる必然性を理解して歌おう!

### 3. 帆を上げよ、高く

P52 テナーの旋律は21小節から始まるピアノの16分音符を根底に感じて、全員の気持ちをあわせて歌う

P56 50小節からのソプラノ「つながっていく」「いのちの」「あかしとして」三つの言葉をレガートで歌う

P57 57小節のテナーのGoの入り、58小節の上3パートのGoの入りは、改めてPPに落とす感覚で

P62 P63 「帆を上げよ」の [ほ (Ho)] をキチンと響かせから [を] に移る

P70 181小節 「ふなでの」から 気持ちも前へ (船が動きだす感覚を持って)

2018.6.18

文責：関@Sop